別添１

生産性向上支援訓練
カリキュラムカスタマイズ例
（介護事業所向けＤＸ）

まずは、業務改善の目的と必要性の理解から

成果を上げる業務改善	１頁

（業務改善の目的と必要性を理解し、改善の視点と具体的な進め方を習得します。）

ＤＸ推進に向けたスタートコースへ

ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進	２頁

（ＤＸによる企業変革の有効性を理解し、自社のＤＸ推進に向けたポイントを習得します。）

事業所の課題に応じたデジタル技術を選択

ＩＴツールを活用した業務改善	３頁

（ＩＴツールの特徴と種類を理解し、自社業務に適切なＩＴツールを選定するための知識を習得します。）

クラウド活用入門	４頁

（クラウドに関する基本的な知識、サービス及び利用方法を理解し、クラウドを活用した業務展開の企画提案の知識と技能を習得します。

ＡＩ（人工知能）活用	５頁

（ＡＩの概要とビジネスの現場におけるＡＩの具体的な活用場面等について理解し、ＡＩ活用に係る知識を習得します。）

介護事業所向け

B．組織マネジメント － 組織力強化

生産性向上支援訓練

042

成果を上げる業務改善

人材育成上の課題・目標

・業務上の問題点（ムリ・ムダ）を把握したい
・自社の強みをもっと発揮したい
・業務改善の進め方が分からない
・業務改善の効果や必要なコストがよく分からない

課題解決・目標達成を目指して

・自社の問題点発見のための着眼点を理解する（サービス、コスト、スピード）
・自社の問題点を発見・分析する方法を理解する
・自社の問題点に対する改善プランを検討する
・トップダウンで行う業務改善方法を理解する
・ボトムアップで行う業務改善方法を理解する

コースのねらい

生産性向上に資する業務改善の目的と必要性を理解し、改善の視点と具体的な進め方を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 業務改善と業務の可視化	・介護現場における業務改善の目的（職員負担軽減、ケアの質向上、離職防止） ・業務改善の取組みとその成果（記録業務の効率化、申し送りの精度向上、見守り業務の省力化） ・業務の可視化の必要性と可視化手法（タイムスタディ、業務フロー図、業務量の定量化） ・介護現場での「ムリ・ムダ・ムラ」の洗い出しと改善ポイントの抽出 ・トップダウンとボトムアップによる改善推進（管理者と現場職員の協働）
	■ 業務改善手法	・業務プロセス上の課題発見（記録の重複、情報共有の遅延、非効率な移乗支援など） ・課題に対する改善プランの検討（ＩＣＴ導入、業務分担の見直し、マニュアル整備） ・対策の立案・実施（介護記録ソフトの導入、インカム活用、見守りセンサーの設置） ・改善成果の検証（業務時間の削減、職員満足度、利用者の安全性向上） ・ＰＤＣＡサイクルによる継続的改善の仕組み構築
	演習（例）	・業務の可視化演習（タイムスタディ、業務フロー作成） ・現状分析と原因分析演習（グループワーク） ・自施設の課題明確化と改善企画演習（改善方針シートの作成）
応用・実践要素（例）		・業務の問題発見手法 ・企業における業務改善事例の紹介 ・業務の見える化（量、種類、流れ）

※　基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

（１）１日（６時間）コース
３，３００円（税込）
（２）２日間（１２時間）コース
５，５００円（税込）

※　金額は、１名あたりの受講料です。
※　６～３０時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

介護事業所向け

A．バックオフィス － 新技術活用

生産性向上支援訓練

119

ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進

人材育成上の課題・目標

・ＤＸの事例が知りたい
・顧客及び社会のニーズを基に、ビジネスモデルを変革させたい
・従来の組織、企業文化・風土を見直したい
・ＤＸの推進に必要な社内体制を構築したい
・ＤＸの推進に必要な知識、デジタル技術を知りたい

課題解決・目標達成を目指して

・各企業におけるＤＸ推進の動向を知る
・ＤＸを推進する関係者間での共通理解の形成や社内推進体制の整備といった事業変革の環境整備への取り組みが必要なことを理解する
・ＤＸ推進のための経営のあり方、仕組みを理解する
・現状の課題から、ＤＸ推進のためにとるべきアクションを検討できる
・ＩＴ新技術の動向を知る

コースのねらい

ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）による企業変革の有効性を理解し、自社のＤＸ推進に向けたポイントを習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ ＤＸ概論	・介護分野におけるＤＸの定義と必要性（人材不足、業務負担、ケアの質向上） ・介護サービス事業における生産性向上に資するガイドラインとの関係性 ・ＤＸによる介護サービスの変革（記録のデジタル化、見守りの自動化、情報共有の強化） ・介護施設に求められる変革の方向性（業務の標準化、ＩＣＴ活用、職員教育） ・ＤＸ推進の目標設定と現場の合意形成
	■ ＤＸ導入事例	・介護施設でのＤＸ成功事例紹介 ＊見守りセンサー導入による夜勤業務の効率化 ＊音声入力記録システムによる記録時間の短縮 ＊クラウド型記録システムによる多職種連携の強化 ・成功の要件（現場の理解、段階的導入、費用対効果の明確化） ・導入における課題と対応策（職員教育、セキュリティ、利用者の同意）
	■ ＤＸ戦略の導入	・介護施設におけるＤＸ推進体制の構築（推進委員会、リーダー育成） ・業務プロセスの再設計（記録、申し送り、見守り、排泄管理など） ・ＤＸ推進領域の選定（業務改善、ケアの質向上、職員定着） ・デジタル技術の活用戦略（ＩｏＴ、ＡＩ、ＲＰＡ、クラウド） ・ＤＸ推進指標を活用した進捗管理と評価
	演習（例）	・自施設の課題に対するＤＸ導入の検討演習（グループワーク） ・ＤＸ推進指標を用いた現状評価と改善計画の立案 ・ＤＸ人材育成計画の策定（研修、ＯＪＴ、外部支援活用） ・ベンダー選定と導入プロセスのシミュレーション
応用・実践要素（例）		・デジタル企業へ迅速に変革する能力の獲得（ベンダー企業、ＤＸ人材の確保）

※　基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

（１）１日（６時間）コース
３，３００円（税込）
（２）２日間（１２時間）コース
５，５００円（税込）

※　金額は、１名あたりの受講料です。
※　６～３０時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

介護事業所向け

A．バックオフィス － システム導入

生産性向上支援訓練

056

ＩＴツールを活用した業務改善

人材育成上の課題・目標

・ＩＴツールを活用してムリ・ムダをなくしたい
・ＩＴツールを導入したいが効果がよく分からない
・ＩＴツールを導入したがなかなか業務の改善につながらない
・自社業務に適切なＩＴツールを選定したい

課題解決・目標達成を目指して

・ＩＴツールの種類と活用方法を理解する
・ＩＴツールの業務適用範囲を検討する
・ＩＴツール適用後の改善効果を検証する
・ＩＴツールの必要機能の選定と導入・運用コストを理解する

コースのねらい

業務の省力化や効率化を目指して、ＩＴツールを活用することで業務改善を実現するために、ＩＴツールの特徴と種類を理解し、自社業務に適切なＩＴツールを選定するための知識を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ ＩＴツールの種類と活用	・介護現場で活用されるＩＴツール（介護記録ソフト、見守りセンサー、インカム、排泄センサー等）の紹介 ・各ツールの導入目的と効果（業務効率化、記録の質向上、職員間連携の強化） ・介護現場でのＩＴ導入失敗事例とその要因（現場の理解不足、導入目的の不明確さなど） ・介護テクノロジー導入におけるリスクとその対応（個人情報保護、セキュリティ、利用者の同意）
	■ ＩＴツールの業務適用	・ＩＴツールが適用可能な領域の検討（記録、申し送り、見守り、排泄管理など） ・ＩＴツール導入に向けた業務分析と課題の見える化（タイムスタディ、業務フロー分析） ・必要機能の選定と導入・運用コストの把握（初期費用、ランニングコスト、補助金活用） ・導入後の改善効果の検証方法（業務時間の削減、職員満足度、ケアの質向上） ・使用者（介護職員）へのフォローアップと定着支援（研修、マニュアル整備、相談体制）
	演習（例）	・ＩＴツール導入が可能な介護業務の選定演習（グループワーク） ・介護記録ソフトを活用した定型業務改善のシミュレーション ・導入効果と運用コストの比較検討（ケーススタディ） ・自施設の業務分析結果に基づくＩＴツール導入計画の立案
応用・実践要素（例）		・業務分析結果に基づくＩＴツールの導入 ・ＩｏＴと連携したＩＴツールの活用事例 ・ＩＴツールとサプライチェーン連携事例

※　基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

（１）１日（６時間）コース
３，３００円（税込）
（２）２日間（１２時間）コース
５，５００円（税込）

※　金額は、１名あたりの受講料です。
※　６～３０時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

介護事業所向け

A．バックオフィス － クラウド・ＩoT導入

生産性向上支援訓練

018

クラウド活用入門

人材育成上の課題・目標

・クラウドサービスについて興味がある
・クラウド活用のメリットと導入事例が知りたい
・生産活動にスピードと柔軟性をもたせたい
・社内サーバでの情報管理に限界を感じている
・ＩＴの運用管理コストの削減策を検討したい

課題解決・目標達成を目指して

・クラウドの概要と活用のメリット・デメリットを整理する
・ストレージとデータベース機能を理解する
・ＩＴ運用管理コストの低減方法を理解する
・クラウドの活用事例を知る

コースのねらい

クラウドに関する基本的な知識、サービス及び利用方法を理解し、クラウドを活用した業務展開の企画提案の知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ クラウド	・介護現場におけるクラウド活用の意義（情報共有、記録の一元管理、遠隔支援） ・クラウドの定義と特徴（柔軟性、拡張性、コスト効率） ・クラウド活用のメリットとデメリット（導入コスト、セキュリティ、職員のＩＴリテラシー） ・介護記録ソフトやケアプラン管理システムのクラウド化事例 ・クラウド導入による業務改善（申し送りの効率化、情報のリアルタイム共有）
	■ クラウドサービス	・介護分野で活用可能なクラウドサービスの種類 ＊ストレージサービス：利用者記録、写真、動画の保存 ＊ネットワークサービス：遠隔カンファレンス、訪問介護の連携 ＊データベースサービス：利用者情報、ケア履歴の一元管理 ・クラウド型介護記録システムの導入事例と効果 ・セキュリティ対策と個人情報保護のポイント（多要素認証、アクセス制限）
	■ クラウドの利用	・クラウドサービスの導入手順と運用方法（ベンダー選定、職員研修、運用ルール） ・自施設の業務に適したクラウド活用の検討（記録、申し送り、業務報告） ・ビッグデータ活用によるケアの質向上（睡眠・排泄データの分析） ・クラウド活用による業務の標準化と職員間の情報共有促進 ・導入後の評価と改善（ＫＰＩ設定、職員の声の反映）
	演習（例）	・自施設の業務におけるクラウド導入企画演習（グループワーク） ・クラウド活用による業務改善提案書の作成 ・ビッグデータ活用のためのクラウド環境設計シミュレーション ・導入後の運用管理体制の構築演習
応用・実践要素（例）		・クラウドを活用したシステム構築 ・ビッグデータの仕組みと活用事例

※　基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

（1）１日（６時間）コース
３，３００円（税込）
（2）２日間（１２時間）コース
５，５００円（税込）

※　金額は、１名あたりの受講料です。
※　６～３０時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

介護事業所向け

A．バックオフィス － 新技術活用

生産性向上支援訓練

094

ＡＩ（人工知能）活用

人材育成上の課題・目標

・ＡＩの仕組みを知りたい
・ＡＩの導入事例が知りたい
・ＡＩ活用のメリット・デメリットが知りたい
・ＡＩの活用方法がわからない

課題解決・目標達成を目指して

・ＡＩの仕組みを知る
・ＡＩの導入事例を知る
・ＡＩを業務に活用する方法を理解する
・ＡＩの活用における課題を知る

コースのねらい

ＡＩ（人工知能）の概要とビジネスの現場におけるＡＩの具体的な活用場面等について理解し、ＡＩ活用に係る知識を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ＡＩ(人工知能)の概要	・介護分野におけるＡＩの定義と役割（業務支援、ケアの質向上、安全管理） ・ＡＩの仕組み（機械学習、ニューラルネットワーク、ディープラーニング）を介護業務にどう活かすか ・ＡＩ活用のメリット（記録の自動化、転倒予測、ケアプラン支援）とデメリット（導入コスト、職員の理解不足） ・介護現場でのＡＩ導入に向けた基礎知識の習得
	■ＡＩの活用事例と今後の展望	・ＡＩ活用事例紹介 ＊転倒検知ＡＩカメラによる見守り業務の効率化 ＊音声入力ＡＩによる介護記録の自動化 ＊ＡＩによるケアプラン作成支援ツールの活用 ・導入時の課題（現場の理解、データ整備、プライバシー保護） ・今後の展望（介護ＡＩの進化と制度的支援（科学的介護、ＬＩＦＥとの連携）
	演習（例）	・自施設の課題に対するＡＩ活用の検討演習（グループワーク） ・クラウドサービスを利用したＡＩ体験（記録自動化、画像認識など） ・ＡＩを活用した介護サービス構築演習（企画書作成、導入計画立案） ・ＡＩ導入における課題分析と対応策の検討（職員教育、運用体制）
応用・実践要素（例）		・自社におけるＡＩ活用の検討 ・ＡＩ活用における課題・分析 ・ＡＩを活用したサービス構築演習

※　基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

日程設定と受講料（例）

（１）１日（６時間）コース
３，３００円（税込）
（２）２日間（１２時間）コース
５，５００円（税込）

※　金額は、１名あたりの受講料です。
※　６～３０時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層